

「透析患者における大動脈弁狭窄症に対する大動脈弁置換術(生体弁)の遠隔成績および予後因子の検討」に対するご協力をお願い

— 2009年7月1日から2020年12月31日の間に、獨協医科大学病院心臓・血管外科に入院し、透析患者様で大動脈弁狭窄症に対し手術を受けられた方へ —

研究機関(所属) 獨協医科大学病院 心臓・血管外科
研究責任者(職名) 柴崎郁子(准教授)
研究分担者 土屋 豪、武井祐介、手塚雅博、金澤祐太、菅野靖幸、斎藤俊輔、
緒方孝治、福田宏嗣
審査委員会 獨協医科大学病院 臨床研究審査委員会

このたび当院では、上記のご病気で入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、研究責任者または分担者までご連絡をお願いします。

1. 研究の目的と意義

透析患者は国内に約34万人おり、年々増加傾向です。しかし同年代の健康人に比べると動脈硬化の進行が早く、心血管疾患の手術症例は増加しており、特に大動脈弁狭窄症は増加傾向です。しかし非透析患者と比較すると手術死亡や遠隔成績が悪いとの報告があります。また使用する人工弁に関しても議論の余地があります。今回、当院における透析患者の大動脈弁狭窄症に対する生体弁での大動脈弁置換術の遠隔成績および予後因子について検討します。

2. 研究対象者

2009年7月1日から2020年12月31日の間に獨協医科大学病院心臓・血管外科において透析患者様で大動脈弁狭窄症に対し生体弁による大動脈弁置換術の治療を受けられた方60名を研究対象とします。

3. 研究実施期間

実施許可日～2023年3月31日

4. 研究方法

上記1)の研究対象者について、診療情報に基づいて透析患者による生体弁での大動脈弁置換術に関する分析を行い、生存率や合併症について調べます。

5. 使用する情報

◇ 研究に使用する試料

研究のために新たに行う検査や採取する試料はございません。

◇ 研究に使用する情報

患者基本情報 : 年齢、性別、身長、体重、既往症、合併症、透析歴、内服歴
術前後生化学検査 : 総タンパク、アルブミン、AST、ALT、BUN、クレアチニン、BNP
術前検査 : 胸部レントゲン、心電図、心エコー検査、冠動脈カテーテル
手術 : 術式、手術時間、人工心肺時間、輸血量
周術期管理 : 挿管時間、ICU入室期間、合併症
術後検査 : 胸部レントゲン、心電図、心エコー検査

14. 外部への情報の提供

本研究では外部への提供はありません。

15. 研究組織

本研究は、獨協医科大学病院 心臓・血管外科が単独で行います。